

木谷正道の囲碁入門講座

平塚「進和学園」で囲碁入門講座

四十九年前、出縄明先生が私財を投げ打って知的障害者の更生施設「進和学園」をつくった。今では八カ所で四百人の方々が利用し、二百余人の職員が働いている。平塚の誇りの施設だ。

二月三日、湘南平の中腹にある進和学園ふれあいホールで初めて囲碁入門講座を開催した。障害を持つ方やご家族、ワーカーなど四十五人が受講した。

平塚は市民が主導する防災・耐震補強の町として知られる。工務店を営む菅家芳助さん(平塚耐震協議会副会長)が建築端材を活用して六路盤を試作し、早速講習に使った。テキストはA三判一枚である。



講座の最後に皆で「故郷」を唄った。このまちを、この故郷をみんなですべて守っていかうね。そんな思いが満ちた。青空と富士山がすがすがしい一日だった。

二時間があっという間に過ぎた。受講者はすぐにルールを覚え対局した。受(故木谷實九段三男。施設で弾き語り、囲碁普及、耐震など取り組む)

日本棋院の信田茂仁常務理事も駆けつけ、指導と講評を行ってくれた。

ほとんどの人が全く初めてで、「囲碁を覚えるのはとても難しい」と最初は考えていたが、終了後は「講習はとても分かりやすい」「とても楽しかった」「ぜひまたやってみよう」と答えてくれた。良かった!

進和学園と耐震協議会は、小碁盤の製作販売を障害者の授産事業として行う話し合いを進めている。三月二十四日の防災フォーラムで発表される予定だ。関係者は「木谷さん、ワクワクします」と言ってくれた。市民活動のまち平塚にふさわしい事業になるだろう。